

事故を防ぐために

1 洗剤は子どもの手の届かないところに保管しましょう

洗濯用パック型液体洗剤のフィルムは、水に溶けやすいため、舐めたり口に入れたりすると、唾液によりフィルムが溶け、誤って洗剤を飲んでしまうおそれがあります。また、濡れた手で握っているとフィルムが破れて洗剤が飛散し、口や目に入る可能性もありますので、床や洗面台の下等子どもの手の届くところには置かないように注意しましょう。

子どもは、意外と高いところまで手が届きます。高いところであっても手前には置かないよう心がけたり、近くに足場になるものがないよう気を付けましょう。

2 洗剤を使った後は、必ずフタを閉めて、決まった置き場所にすぐ戻すように習慣づけましょう

少しの間でも床に置いた隙に子どもが触ってしまい、事故が発生しているケースもあります。使用後は必ずフタを閉めて、決まった置き場所にすぐ戻す習慣を作りましょう。

3 洗濯用パック型液体洗剤を濡らさないように気を付けましょう

水に濡れると溶けやすいフィルムのため、濡れた手で触ったり、フタを開けたまま保管すると、洗剤同士が付いてしまうことがあります。またそれを剥がそうとすると破れて中身が飛び出ることがあるので気を付けましょう。

事故が起きたら

◎飲んでしまった場合

できるならば口をすすがせ、水または牛乳を少量飲ませて、受診しましょう。吐物が気管に入ってしまうおそれがあるため、無理に吐かせないでください。

◎目に入ってしまった場合

こすらずに、すぐに水で10分以上洗い流して、受診しましょう。洗う際は、角膜を傷をつけないためにも勢いの強い水では洗わないでください。

◎皮膚についた場合

すぐに大量の流水で洗いましょう。付着した衣服は脱いでください。

●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の詳細は、独立行政法人国民生活センターホームページに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、

被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。

特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。

商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。

無断転載はお断りいたします。



独立行政法人
国民生活センター

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL.042 (758) 3165 ● 2015年5月発行

イラスト=川崎 敬郎

くらしの危険 Number 325

洗濯用パック型液体洗剤に気を付けて！

— 特に3歳以下の乳幼児に事故が集中しています —

洗濯用パック型液体洗剤は、新たな形の洗濯用洗剤として、2014年4月以降、日本でも製造販売が行われています。

計量の必要がなく簡便という利点があるものの、フィルムが破れ、口や目に入る等の事故情報が消費者庁に寄せられています。フィルムは水に溶けやすいため、子どもが握ったり噛んだり遊んでいるうちに、破れてしまうケースが多く、特に3歳以下の乳幼児に被害が集中しています。また、何かの拍子で濡れたまま保管すると、洗剤同士がついてしまい、その後剥がそうとすると中身が出てしまうこともあるようです。

乳幼児の手の届かないところで保管するよう注意してお使いください。



洗濯用パック型液体洗剤とは

◆国内で販売されている代表的な洗濯用パック型液体洗剤は、中性の濃縮液体洗剤を水溶性のあるフィルムで包んだ、触ると柔らかいものです。

◆3歳児が手で持ったところ、片手で覆えないほどの大きさでした。3歳以下の乳幼児の口には入らないこと、フィルムが水に溶けやすいことを考慮すると、窒息の可能性は低いと思われませんが、乳幼児は身の回りのものを何でも口に入れようとするので注意が必要です。



こんな事故が起きています

「洗濯用パック型液体洗剤」に関する事故情報が事故情報データベース*1や医療機関ネットワーク*2などから消費者庁に報告されています。

特に、3歳以下の乳幼児の被害が目立ち、ほとんどの事例が、フィルムが破れ中身が出て口や目に入ったというものでした。

(*1) 消費者庁が国民生活センターと連携して、関係機関より「事故情報」「危険情報」を広く収集し、事故防止に役立てるためのデータ収集・提供システムです。(2010年4月より情報収集を開始)

(*2) 生命または身体に被害が生じた消費生活上の事故情報を参画医療機関から収集し、国民への注意喚起などに活用することを目的としている事業です。(消費者庁と国民生活センターの共同事業、2010年12月より情報収集を開始)

ケース1

パックタイプの液体洗剤を子どもが握ったら破裂し、目の中に入った。目の表面が洗剤で覆われてしまったので、急いで水で洗い流し、治療を受けた。

(3歳 女児)



ケース2

親が洗面所で洗濯中、別室にいた子どもが吐き、泣き出した。洗濯機の横60cmの高さに置いてあった洗剤をかじってしまった様子。

すぐに吐き出させて口をゆすいだが、口が痛いという。

(4歳 男児)

ケース3

高さ1メートルくらいの棚に保管していた洗剤を、子どもが箱から1つ取り出して遊んでいたところ飲み込んだ。母親が指を突っ込んで吐かせ、牛乳を飲んで病院を受診。

(1歳 男児)

「洗濯用パック型液体洗剤」のフィルムの特性と強度についてテストを行いました。

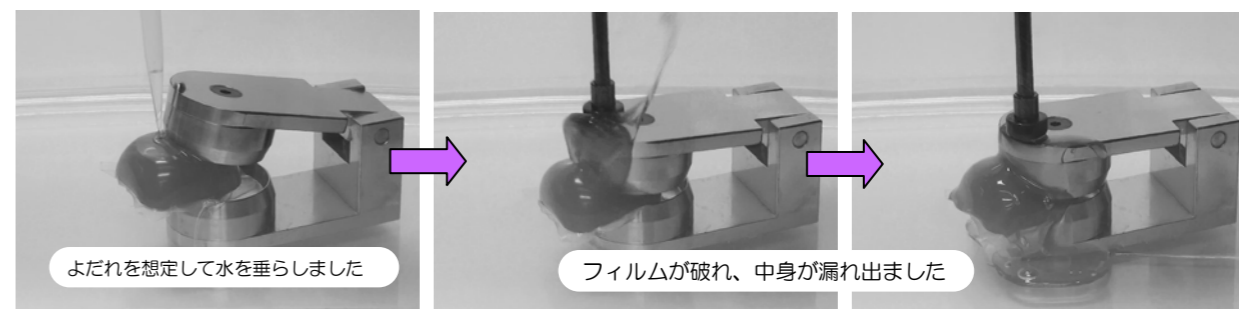
国内で販売されている代表的な洗濯用パック型液体洗剤は、簡単には破れない強度を持ちながら、わずかな水で溶け出し洗濯している間に溶けきる特殊なフィルムで包まれています。そこで、子どもが口に入れた場合や洗剤同士が付いた場合にどのような状況になるのか検証しました。

★子どもが口に入れるとフィルムが破れることがあります

乳幼児が洗濯用パック型液体洗剤を手に取り、口に入れようとしたことを想定して2つのテストを行いました。

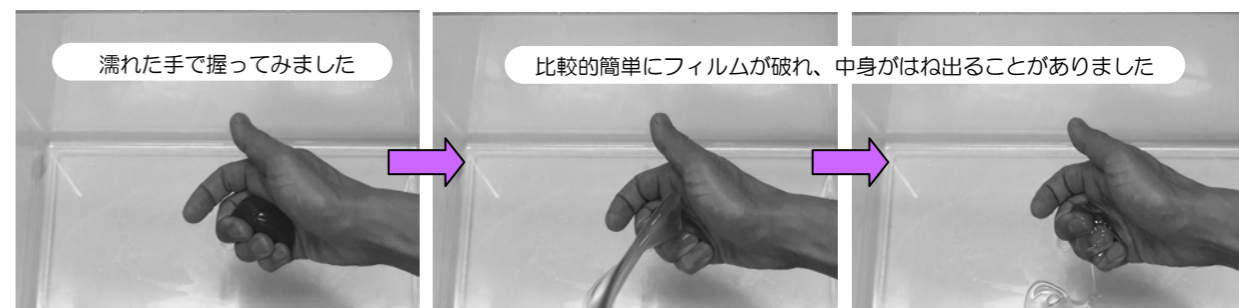
①手に取り、口に入れ、噛んだ場合【玩具安全基準書に準ずる噛む試験器を用いて検証しました】

唾液やよだれを想定し、約0.5gの水をたらし、速やかに荷重(0.6kgf)を加えたところ、フィルムが破れ、液体洗剤が漏れ出しました。なお、豆腐で試したところ、同等の荷重(0.4kgf)でつぶれました。



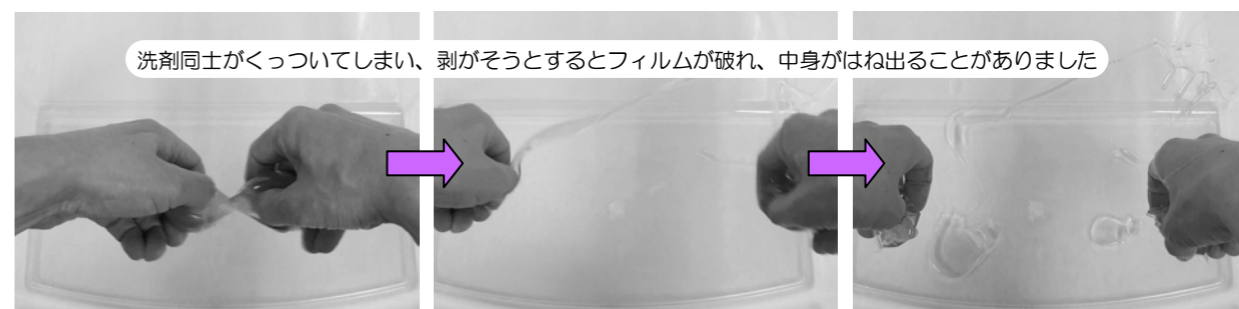
②手に取り、口に入れた後、握った場合【テストは成人で行いました】

約0.5gの水を噴霧した濡れた手で軽く握った場合、フィルムが破れ中身が出るのか調べてみました。その結果、比較的簡単にフィルムが破れ、中身がはね出ることがありました。



★濡れたまま保管してしまうと、洗剤同士が付いてしまい、その後剥がそうとすると破れて中身がはね出ることもあります

洗剤一つに約0.5gの水を噴霧して、洗剤が入っているケースに戻した後、どうなるか検証しました。その結果、濡らした洗剤が乾燥し接触していた洗剤に付くことがありました。さらに、剥がそうとしたところフィルムが破れ中身がはね出ることがありました。



●このテストの詳細は独立行政法人国民生活センターホームページ 商品テスト結果「洗濯用パック型液体洗剤に気を付けて！—特に3歳以下の乳幼児に事故が集中しています—」で見ることができます。